

改築に至る経緯について

1 富津市の学校施設の状況

本市の学校施設は、昭和 40 年代から 50 年代にかけて建設されたものが多く、建築後 40 年以上が経過し、老朽化が進行している状況にあります。

【市内小学校の状況】

学校名	児童数 (人) ※1	学級数 (学級) ※1	校舎		校舎面積		屋内運動場		屋内運動場面積 (※4)	
			建築年 ※2	大規模改造 ※3	(㎡) ※4	一人当たり	建築年 ※2	大規模改造 ※3	(㎡) ※4	一人当たり
青堀小学校	667	24	S50		5,940	8.91	S47	H23	805	1.21
富津小学校	149	8	S36	H15	4,980	33.42	H6		1,027	6.89
飯野小学校	177	8	S48		4,404	24.88	S53	H23	809	4.57
大貫小学校	168	8	S41	H15	5,040	30.00	S52	H23	1,128	6.71
吉野小学校	123	8	S44	H15	2,987	24.28	S51		783	6.37
佐貫小学校	43	7	S46		3,121	72.58	S49	H23	756	17.58
天羽小学校	190	11	S51		4,351	22.90	S52		808	4.25
環小学校	53	6	S63		1,828	34.49	S54		707	13.34

※1 児童数・学校数は、令和4年5月1日現在(学級数は、普通学級・特別支援学級の合計数)

※2 建築年は、教室棟、特別教室棟等複数ある建物のうち最も古い建物の建築年を記載

※3 大規模改造とは、経年による劣化や損傷・故障等が生じた内外装材や設備等を改修・更新するなど、建設当時の状態に戻すことを主な目的とした工事をいう。

※4 建物面積は、富津市学校施設整備基本計画別冊の記載による。

2 整備計画の具体化

- 平成 29 年度 「富津市学校施設整備基本計画(平成 30 年3月)」を策定
各学校の老朽度の状況などを調査のうえ、学校施設整備の優先順位を定める。



青堀小学校校舎を次期整備対象校として位置付ける。

3 青堀小学校校舎等改築工事の事業化

- 令和2年度 校舎の耐力度調査実施
 - (1) 普通教室棟 3,553/10,000点
 - (2) 特別教室棟 3,807/10,000点
 - (3) 渡り廊下棟 3,931/10,000点
- 令和3年度 屋内運動場の耐力度調査実施
4,158点/10,000点

校舎、屋内運動場ともに、
所要の耐力度に達しない
結果となる。



校舎及び屋内運動場の整備方法を「改築」とする。

理由は以下のとおり。

- 耐力度調査により、所要の点数に達しなかったこと。
- 大規模改修と比較して、校舎を健全な状態で保持できる期間、施設の多様性等への対応など改築の方が優位と判断できること。
- 屋内運動場は、学級数に対する必要面積 1,215 m²に比べて 805 m²と大幅に基準を満たしていないこと。

※耐力度調査

耐力度調査は、建物の「構造耐力」、「健全度(経年による耐力・機能の低下)」、「立地条件」による影響の3項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するものです。

調査の結果、所要の耐力度(鉄筋コンクリート造、鉄骨造等は 4,500/10,000 点)に達しない建物については、施設建替え(改築)に際し、文部科学省の交付金対象となる。

- 令和4年度 改築基本構想・基本計画策定(予定)